

全国公立中高一貫校 適性検査

先生・塾いらず 1人で学習できる!

過去問題解説集

第3弾

論理的思考力・
地頭力を要する

算数問題

佐藤 学 著



「恋する適性検査」 <http://ameblo.jp/tekisei-kensa/>

☒ ☆目次 問題編

■ 2007年	さいたま市立浦和中学校	1
■ 2007年	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	2
■ 2007年	沼津市立沼津高等学校中等部	3
■ 2007年	静岡県共通	4
■ 2007年	長崎県共通(いす)	5
■ 2007年	長崎県共通(花だん)	6
■ 2007年	和歌山県立古佐田丘中学校	7
■ 2008年	徳島県共通	8
■ 2008年	東京都立白おう高等学校附属中学校	9
■ 2009年	さいたま市立浦和中学校	10
■ 2009年	愛媛県共通	11
■ 2009年	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	12
■ 2009年	京都府立洛北高等学校附属中学校	13
■ 2009年	佐賀県共通	14
■ 2010年	さいたま市立浦和中学校	15
■ 2010年	京都市立西京高等学校附属中学校	16
■ 2010年	静岡県共通	17
■ 2010年	千葉県立千葉中学校	18
■ 2010年	東京都立南多摩中等教育学校	19
■ 2010年	福岡県共通	20
■ 2011年	京都市立西京高等学校附属中学校	21
■ 2012年	岡山県立岡山操山中学校	22
■ 2012年	千葉県立千葉中学校	23
■ 2013年	宮城共通	24
■ 2013年	熊本県共通	25
■ 2013年	長崎県共通	26
■ 2015年	愛媛県共通	27
■ 2015年	東京都立小石川中等教育学校	28
■ 2016年	横浜市立南高等学校附属中学校	29

☆公立中高一貫校 適性検査 2007年 さいたま市立浦和中学校

下は、花子さんが交通費を調べるために、3年間の電車とバスの定期代の合計をもとめるために使った筆算を \boxed{A} ~ \boxed{F} で示したものです。

\boxed{A} ~ \boxed{F} には、0~9までの数字が入ります。ただし、同じ文字には同じ数字が入り、違う文字には違う数字が入ります。

定期代の合計金額はいくらになるでしょうか。 $\boxed{D}\boxed{C}\boxed{A}\boxed{B}\boxed{C}$ に入る数をもとめなさい。

$$\begin{array}{r} \boxed{A} \boxed{B} \boxed{C} \boxed{D} \boxed{C} \\ + \boxed{C} \boxed{E} \boxed{F} \boxed{A} \boxed{F} \\ \hline \boxed{D} \boxed{C} \boxed{A} \boxed{B} \boxed{C} \end{array}$$

ある「バーコード」には、図のように、しま模様とその下に13個の数字が書かれてあり、しま模様は、下の数字を表しています。

バーコードの例



このバーコードのしま模様が表す数字から、商品名や値段などを機械が読みとるようになっており、とても便利なものです。

ただ、機械がバーコードを正しく読みとらなければ困りますので、機械の読み誤りを最後の数字でチェックができるようしくみがあります。そのしくみについて説明します。

ここに、「4957925198304」というバーコードの数字があります。

まず、「4957925198304」を「495792519830」と最後の「4」に分けます。

次に、「495792519830」の(ア) 奇数番目の数字つまり4, 5, 9, 5, 9, 3を合計します。すると、「35」となります。

さらに、(イ) $9 \times 3 + 7 \times 3 + 2 \times 3 + 1 \times 3 + 8 \times 3 + 0 \times 3$ と計算します。

その答えは「81」となります。この二つをたした「116」を「10」で割った余りを求め、

その余りを「10」から引いた数は「4」で、最後の数字の「4」と同じになるようにつくられています。

ですから、機械が正しく読みとらなかったら最後の数字が合わなくなり、読み誤りをしたことがわかります。

問い1 下線部(イ)は、どのような計算をしていますか。下線部(ア)を参考にして、説明してください。

問い2 ここに、「4902□02068492」という「バーコードの数字」があります。

このバーコードの□部分の数字を機械は4と読みとったとします。この場合、機械はバーコードを正しく読みとったと言えるでしょうか、言えないでしょうか。どちらかを選び、その理由を計算した式を使って説明してください。

問い3 ここに、「497857101□723」という「バーコードの数字」があります。

□部分の数字を機械が正しく読みとったとすると、その数字は何になりますか。

-そのように考えた理由を計算した式を使って説明してください。また、その数字も書いてください。

あゆみ「バーコードの下の数字は何？」

一郎「その商品が何かを表しているんだよ。



たとえば『4901085096093』というバーコードでは
最初の『49』は国コードで日本を意味し、次の『01085』は商品
をつくった会社を、そして次の5けたの『09609』が商品の番号だ。」

あゆみ「最後の『3』は何？」

一郎「それはチェックデジットといってバーコードを正しく読み取れたかどうかを確かめる数字
だよ。」

あゆみ「どうやって決まっているの？」

一郎「まず、一番左の数字から一つ飛びに足すよ。『 $4 + 0 + 0 + 5 + 9 + 0 = 18$ 』だ。

今度は左から2番目の数字から一つ飛びに足して3を掛けるよ。

『 $(9 + 1 + 8 + 0 + 6 + 9) \times 3 = 99$ 』だね。

この99にさっきの18を足すと117となるね。

この数字の一の位の数字を10から引いたもの、つまり『 $10 - 7 = 3$ 』の『3』

がチェックデジットだよ。」

問題1 『49021020617?』というバーコードのチェックデジット(?の部分の数字)は
いくつですか。(考え方も書くこと)

一郎「バーコードの一部が読み取れなくても、その数字が何か分かるよ。たとえば『4965
2?013254』というように?の部分の数字が分からなくても計算で求めることができるね。」

問題2 『49652?013254』というバーコードの?の部分の数字はいくつですか。
(考え方も書くこと)

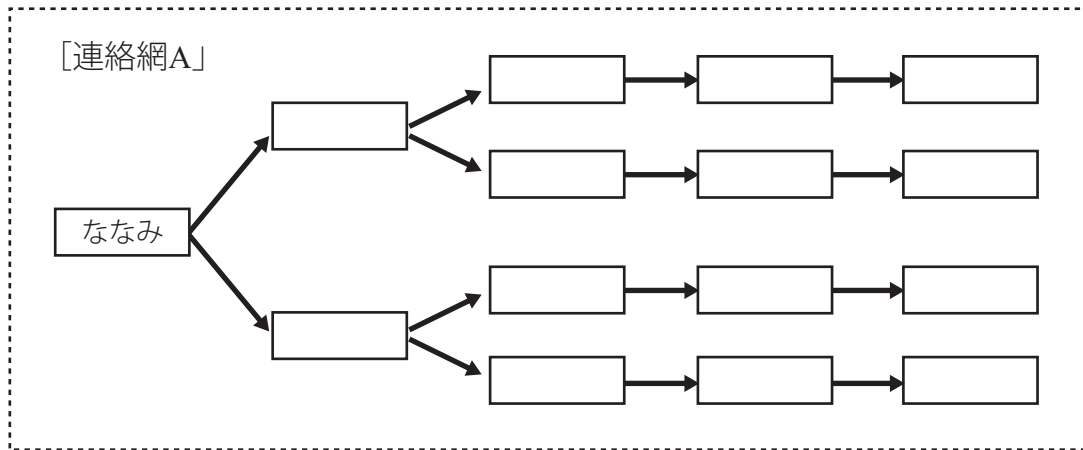
[連絡網(れんらくもう)のコーナー]

連絡網を使って情報を正確にすばやく伝えないといけない場合があるわね。

いざというときのために,連絡網を使った訓練も必要だね。

<連絡網の条件>

- ・ 1人が何人に電話してもよい。
- ・ 1回の連絡につき, 1人にしか伝えられない。
- ・ 1回の連絡につき, 1分かかる。
- ・ 留守や話し中などはない。



問題

- (1) 「連絡網A」を使い, 上の<連絡網の条件>で, ななみさんが出した情報が他の14人に伝わるには, 何分かかかるか求めなさい。
- (2) 上の<連絡網の条件>で, ななみさんが出した情報が他の14人に4分間で伝わるためには, どのような連絡網を作ればよいですか。その連絡網をかきなさい

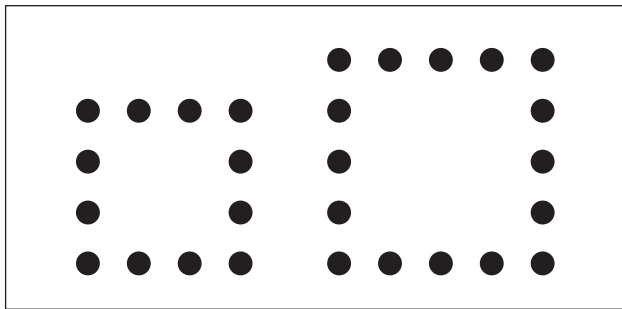
たかしさんたちは、調べた内容をグループごとに発表したあと、反省会をすることにしました。

反省会には、学級のみennaと先生たちのあわせて45人が参加します。

そこで、いろいろないすの並べ方を考えてみました。

たかし「たとえば、図のように正方形の各辺に、いすを4きやくずつ並べると全部で12きやく、5きやくずつ並べると全部で16きやくになるね。」

図



まゆみ「すべての頂点にもいすを置いて考えるんだね。それなら、45人のときはどんな並べ方があるのかな。」

きよし「正八角形の各辺にいすを7きやくずつ並べると、全部で「ア」きやくになってしまうね。」

まゆみ「そうだね。正「イ」角形の各辺にいすを「ウ」きやくずつ並べると全部でちょうど45きやくになるよ。」

たかし「ほかに、正「エ」角形の各辺にいすを「オ」きやくずつ並べても全部でちょうど45きやくになるよ。」

問題

上の文中の「ア」～「オ」にあてはまる数を答えなさい。

ただし、各辺に並べるいすの数は5きやく以上10きやく以下とします。

まさこさんたちは、公民館の花だんの花に水をやることにしました。

公民館には、A～Dの四つの花だんがあり、赤、白、黄の三色の花が植えられています。

それぞれの花だんについては、次のとおりです。

- 一つの花だんに植えられている花の色は、一色のみです。
- AとDの花だんには、同じ色の花が植えられています。
- Aの花だんの花の色は、白ではありません。
- BとDの花だんの花の色は、赤ではありません。

問題

A～Dの花だんには、どの色の花が植えられているでしょうか。それぞれの花の色を書きなさい。

あきらさんとみどりさんのクラスでは,となりのクラスといっしょに遠足に行くことになり,行き先を投票で決めることになりました。遊園地,動物園,美術館,博物館の4か所のうち,投票数の多い2か所に行きます。

これが,ぼくたちのクラスの投票結果だよ。

あきらさんたちのクラスの投票結果

行き先	遊園地	動物園	美術館	博物館
投票数	9票	15票	4票	7票

動物園への投票数が一番多いわね。

2か所のうち,1か所は動物園に決まりそうね。

まだ,決まったわけじゃないよ。

となりのクラスの投票結果がわからないからね。

となりのクラスは,みんなで34人いるそうよ。

最低あと何票入れば,確実に動物園に行くといえるのかな。

投票数の多いほうから2番目までに入れば,動物園に行くことが決まります。

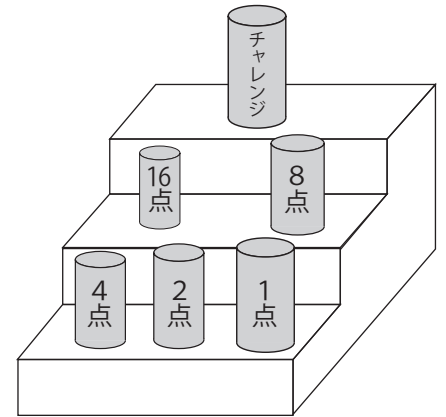
となりのクラスの投票数で最低あと何票入れば確実に動物園に行くことが決まるでしょうか。

式や図,ことばなどを使って説明してみよう。

空気でつぼうを使った的あてゲームがありました。そこには、1点、2点、4点、8点、16点の5種類の得点的が1つずつと、チャレンジ的が1つ並んでいました。このゲームでは、3発の玉を打ち、当てた的の合計得点が20点以上になると、景品がもらえます。

ただし、当たった的は、取り除かれます。

係の生徒「チャレンジ的はね、1発目に当てても得点にはならない



んですよ。でも、2発目または3発目にこの的に当てると、

それまでに当てた得点が2倍になります。」

たけしさんは、得点的2つとチャレンジ的1つに当てることができました。合計得点がちょうど20点になり、景品をもらいました。

■問題

たけしさんの3発の玉は、1発目、2発目、3発目、それぞれどの的に当たったと考えられますか。

次の(例)以外で考えられるものをすべて書いてください。

1発目 → 2発目 → 3発目

(例) チャレンジ → 16点 → 4点

健太：あれ、お父さんの腕時計の文字盤に、見慣れている数字とは違う数字が使われているね。

父：新しい時計を買ったんだ。これは、ローマ数字というんだよ。「I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX, X, XI, XII」が「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12」を表しているんだ。どうして「I, V, X」の3種類のローマ数字の組み合わせで1から12までの数字が表せるのか考えてごらん。表し方の規則が説明できるかい？



千夏：わかったわ。「」

でも、もっと大きな数字はどう表すのかしら。

父：「50」はL、「100」はC、「500」はD、「1000」はMと表すんだ。たとえば、今年は西暦2008年だろう。ローマ数字で、表すと「1000」+「1000」+「8」と考えて「MMVIII」となる。大きなローマ数字を左から書いて全部足すと、表している数になるというのが規則の一つなのさ。

ローマ数字にゼロを表す文字はないから、その時は何も書かなくてもいいんだ。また、「2000」を「IIM」と表したりもしない。左のローマ数字が右のローマ数字より小さくなってしまうからね。

もう一つの規則は、減算則という。右のローマ数字が左の数のちょうど5倍または10倍のときだけには、右の大きいローマ数字から左の小さいローマ数字を引いて表すきまりなんだ。

たとえば「XC」とあれば、小さい「X」=「10」の右に大きい「C」=「100」があるんだけど、ちょうど10倍だからこの時は「90」を意味する。同じく、「CD」は「100」と「500」で「400」を表しているんだ。

健太：なるほど、じゃあ、たとえば「99」を「IC」とは表せないんだね。

父：そのとおり。では、今までのローマ数字の表し方の規則を用いて、4けたの数字「1964」をローマ数字で表すとどうなるでしょうか？

千夏：それって東京オリンピックが開催された年でしょ。

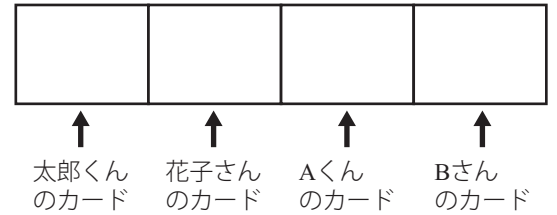
父：そのとおり。じゃあ二人とも、自分の考えた結果とそう考えた理由を説明してごらん。

[問題1] 会話文の中の千夏の発言の「」にあてはまる「ローマ数字の規則の説明」を考えて、書きなさい。

[問題2] 4けたの数字「1964」を会話文の中のローマ数字の規則で表すとどうなりますか。どうしてそう考えたのか、説明も書きなさい。

同じクラスの太郎さんと花子さん、Aくん、Bさんの4人は、カードを使って遊ぶことにしました。右の「カードの並べ方」のように、太郎さんの出したカードの数字を千の位、花子さんの出したカードの数字を百の位、Aくんの出したカードの数字を十の位、そして、Bさんの出したカードの数字を一の位に使うと、4けたの数をつくれます。

カードの並べ方



次の「カードの説明と4人の発言」をもとにして、問1～問2に答えなさい。

カードの説明と4人の発言

- (1) カードは全部で4枚で、「1」「2」「3」「4」が書かれたカードがそれぞれ1枚ずつあります。
- (2) 太郎さんと花子さん、Aくん、Bさんは、1～4の別の数字が書いてあるカードを1枚ずつ持っています。
- (3) 太郎くんは、「ぼくのカードの数は1です。」と発言しました。
- (4) 花子さんは、「わたしのカードの数は2です。」と発言しました。
- (5) Aくんは、「ぼくのカードの数は3です。」と発言しました。
- (6) Bさんは、「わたしのカードの数は3ではありません。」と発言しました。

問1 花子さんとAくんの2人だけが、事実と異なることを言っているとすると、できあがる4けたの数の中で最も大きい数はいくつですか。最も大きい数を答えなさい。

問2 太郎さんと花子さんの2人だけが、事実と異なることを言っているとすると、できあがる4けたの数の中で最も小さい数はいくつですか。最も小さい数を答えなさい。

次の文章は、こうじさんたちが、3分計(3分間をはかる砂時計)と5分計(5分間をはかる砂時計)の2種類の砂時計を用意して、いろいろな長さの時間をはかる方法について話し合っている場面の会話文です。この文章を読んで、あとの(1)~(3)の問いに答えてください。

先生：3分計1個と5分計1個を使っていろいろな長さの時間をはかってみましょう。

片方だけを使っても、両方使ってもかまいませんが、2個を同時には使わないことにします。

また砂時計をひっくり返すのに時間はかからないことにします。

例えば、3分計を2回、5分計を3回使うと、21分の時間をはかることができます。

では、25分をはかるには、どのようにすればいいですか。

こうじ：それは簡単です。5分計を5回使えばできます。3分計は使いません。

先生：なるほど。ほかにないですか。

ゆきえ：はい。3分計を「ア」回、5分計を「イ」回使っても、25分をはかることができます。

先生：正解です。このように、25分をはかる方法は3分計と5分計を使う順番を考えなければ、二通りありますね。

では、3分、4分、5分、…、19分、20分の中で、はかる方法が二通りあるのは、何分ですか。

全部で三つありますよ。

- (1) 文中の「ア」、「イ」にそれぞれ当てはまる数を書いてください。
- (2) 先生が指示したように3分計と5分計を使って時間をはかるとき、3分から20分までの1分きざみの時間(3分、4分、5分、…、19分、20分)の中で、はかる方法が二通りあるのは何分ですか、三つ書いてください。ただし、3分計と5分計を使う順番は考えません。
- (3) 先生が指示したように3分計と5分計を使って時間をはかるとき3分から20分までの1分きざみの時間の中で、はかることができない時間があります。はかることができない時間は何分ですか、すべて書いてください。

図1のように,円形の画用紙に直線を1本引くと画用紙は2つの部分に分かれます。

また,図2のように,直線を2本引くと画用紙は4つの部分に分かれます。

そして,図3のようにすでに引いてある2本の直線と交わるように直線を引くと7つの部分に分かれます。

図1

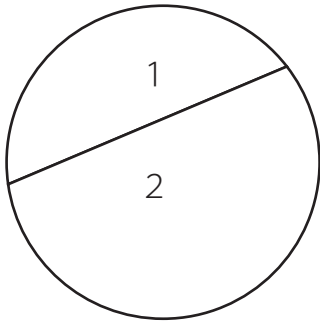


図2

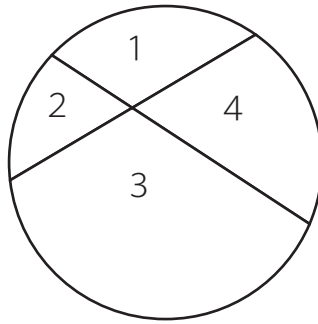
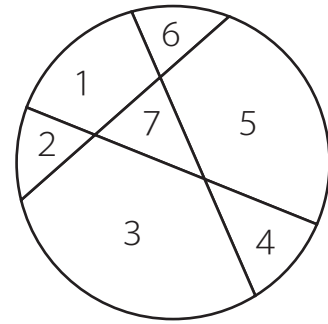


図3



やすおさんは,さらに直線を引いて,円形の画用紙をいくつの部分に分けることができるか考えてみることにしました。

図3にあと2本引くと,画用紙は最大いくつの部分に分けることができるでしょうか。

次の(1)~(5)から選んで教えてください。

- (1) 13 (2) 14 (3) 15 (4) 16 (5) 17

+, −, ×, ÷を演算記号といいます。花子さんは新しい演算記号「★」を考えました。
それを使うと、次のような計算結果になります。

$$\begin{aligned} 2 \star 3 &= 7 \\ 5 \star 9 &= 46 \\ 8 \star 6 &= 49 \\ 7 \star 2 \star 4 &= 61 \end{aligned}$$

このとき、次の課題に取り組みましょう。


(1) 次の式の計算結果を書きましょう。また、計算の仕方がわかるように途中の式も書きましょう。

$$4.5 \star 3.4$$

(2) 次の式の $\boxed{\boxed{\quad}}$ と $\boxed{\quad}$ と $\boxed{\quad}$ にそれぞれ2以上の整数を入れて、答えが2009になる式を4つ書きましょう。ただし、 $\boxed{\boxed{\quad}}$ には $\boxed{\quad}$ に入る整数よりも大きい整数が入ります。なお、同じ整数を2回以上使ってもかまいません。



$$\boxed{\boxed{\quad}} \star \boxed{\quad} \star \boxed{\quad} = 2009$$

あきらさんたちのスポーツチームは、7人の仲間がいます。みんなで、おそろいの練習用のTシャツをつくることにしました。あとの(1)~(3)について考えましょう。

あきらさん：ぼくたちのチームだとわかるように  のようなマーク入れたいですね。

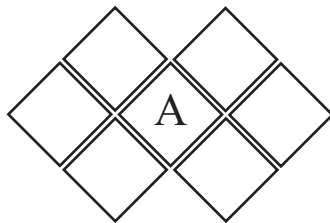
古川先生：7人の背番号を並べてマークをつくったらどうかな。

あきらさん：ただ並べるだけではなくてみんなの気持ちが一つになるようなものもいいですね。

古川先生：じゃあ◇の中に、1から7までの数を1つずつ入れて、 と  の斜線部分の4つの和が等しくなるようにしてみたらどうかな。

もちろん、1から7までの数は1回ずつしか使えないよ。

あきらさん：わあ、かっていいな。じゃあ、まん中の位置をAとして、どんな数の並べ方ができるか考えてみよう。



(1) あきらさんは、さっそく数を並べて考え始めました。まず、自分の背番号2をまん中のAの位置に入れて、つくってみることにしました。

他の◇の中に1つずつ数を入れて、マークを完成させましょう。

(2) Aの位置に入る数には、あるきまりがあります。あなたが見つけたきまりを書きましょう。

また、なぜそのきまりになるのかを言葉や式、図などを用いて説明しましょう。

太郎くんは「家族スキー教室」のレクリエーション大会に参加しました。

30人でゲームを行います。まず最初に「多いが勝ち」というゲームをすることになりました。

次の「『多いが勝ち』ルール説明」をもとにして、問に答えなさい。

「多いが勝ち」ルール説明

このゲームは、「多いが勝ち」という合図と同時にグー、チョキ、パーのいずれかの手を出して、一番多い手を出した人たちが勝ち、というルールです。

例えば、9人で「多いが勝ち」をして、グーを出した人が4人、チョキを出した人が2人、

パーを出した人が3人だった場合は、グーを出した4人の勝ちです。

しかし、このときパーを出した人も4人だったら、チョキを出した人も含めて勝負をやりなおすこととします。

問 30人で「多いが勝ち」をして、勝ち残った人が2人になるまで続けました。

もっとも少ない回数で2人が勝ち残るためには、何回「多いが勝ち」ゲームをしましたか。

回数を数字で答えなさい。

太郎君と花子さんが数当てゲームをしました。太郎君が、1から6までの数字のうち、3つを選んで3けたの数を作ります。ただし同じ数字は1度しか使えません。

この数を花子さんが予想して、同じように1から6までの数字のうち、3つを選んで3けたの数を作って太郎君に伝えます。このときも同じ数字は1度しか使えません。太郎君は、花子さんから伝えられた数と、自分の作った答えを1けたずつくらべて、○と△と×の数を次のように数えて右のようなカードに書き、相手に伝えます。

○, △, ×の数え方

○…予想の数の中で、答えと、けたの位置も数字も一致している数字の個数。

△…予想の数の中で、答えの中にはあるが、位置がちがう数字の個数。

×…予想の数の中で、答えの中にはない数字の個数。

例えば、太郎君の作った答えが2 5 1で、花子さんの予想した数が5 6 1だとすると、予想の数の5は△、6は×、1は○なので、カードには右のように記入します。

○	△	×
1	1	1

表1

このとき、次の問い答えましょう。

(1) 太郎君の作った答えが2 5 1のとき、花子さんは1 5 2を予想しました。カードに書き込まれる数字を右の表1に書きましょう。

○	△	×

(2) 花子さんが1 2 3と予想するとカードに書かれた数は右のようになります。

このとき、太郎君の作った数として考えられる3けたの数をすべて書きましょう。

○	△	×
0	0	3

表2

(3) カードに書かれた○, △, ×の数を合計すると必ず3になります。ところが合計が3になるのに、絶対に書き込まれることのない数字の組み合わせがあります。その組み合わせを右の表2に書きましょう。

○	△	×

(4) 花子さんが1 2 3を予想したとき、カードは次の表3のようになり、太郎君の作った数はそのまま、花子さんの予想を1 4 5とするとカードは表4のようになりました。

表3 (1 2 3 予想のとき)

表4 (1 4 5 予想のとき)

○	△	×
0	2	1

○	△	×
1	0	2

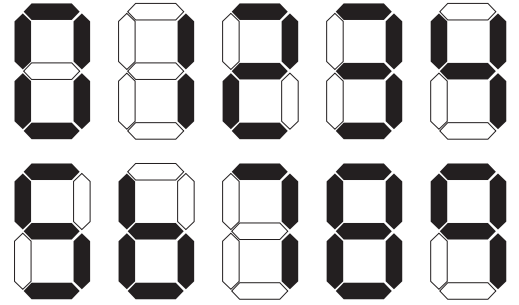
このとき答えとして考えられる3けたの数をすべて書きましょう。また、なぜそう考えたか、わかりやすく説明しなさい。

ゴールにあるタイマーの数字は右の写真のように、たてと横の棒の組み合わせでできています。



たとえば「1」には2本の棒が使われていて、「2」には5本の棒が使われています。12分00秒には、合計で19本の棒が使われていることになります。

みどりさんが、このタイマーの数字のつくりを利用して、ひろみさんに「私の記録を当ててごらん。」とクイズを出しました。



問題 「みどりさんが出したヒント」をもとにして、みどりさんの記録を求めなさい。

また、その求め方も書きなさい。

「みどりさんが出したヒント」

- ・私の記録はタイマーの数字で考えると、全部で14本の棒を使うよ。
- ・私の記録は、10分30秒から13分30秒の間だよ。
- ・10分32秒のように4つの数字を使っていて、同じ数字は使っていないよ。

休み時間になり、ゆうこさん、こうじさん、いずみさんの3人が、かずおさんにクイズを出しました。

クイズ：ゆうこさん、こうじさん、いずみさんの3人のうち、ひとりだけが卓球の球を持っています。3人がそれぞれ発言していますが、卓球の球を持っている人だけが、正しいことを言っているものとします。

かずおさんは3人の発言をきいて、だれが卓球の球を持っているかをあてます。

3人の発言

ゆうこ：いずみさんは持っていないわ。

こうじ：ぼくが持っているよ。

いずみ：こうじさんは持っていないわ。

卓球の球を持っているのはだれですか、書きなさい。

また、そのように考えられる理由を書きなさい。

はるきくんたちの小学校では3年生から6年生が学年ごとに動物の飼育当番をします。

4月になり、6年生の代表の4人が1年間の当番表を作ることになりました。

はるき：飼育当番は、1か月間同じ学年が担当することにしようよ。

なつみ：そうね。そして、必ず1か月ごとに交代するようにしましょう。それから、次の当番までの間には必ずほかの2つの学年の当番が入るようにして、できるだけいろいろな学年が順番にできるようにしましょう。

あきよ：3年生は初めてだから、どの学年よりも当番の回数を少なくしたらよいと思うわ。

ふゆひこ：5年生と6年生は、4年生より多く当番をやろうよ。それから、4年生は早くやりたがっていたから最初にやってもらおう。5年生には最後を担当してもらって、引きつぎがうまくいくようにしよう。そうすれば、6年生になったときにしっかりみんなをまとめていけるはずだよ。

はるき：夏休み中の8月は、ぼくたち6年生が当番をがんばってやった方がいいよね。

なつみ：これだけのことが決まればだいじょうぶかな。当番表を作ってみましょう。

〔問題1〕 4人の会話をもとに各学年の当番の回数を求めなさい。

また、その求め方をくわしく説明しなさい。図、表や式を入れてもかまいません。

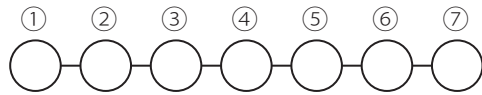
〔問題2〕 4人の会話をもとに当番表を完成させなさい。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学年												

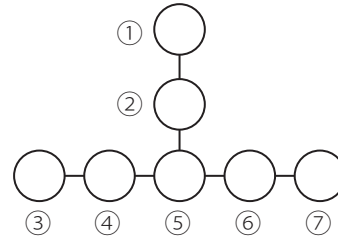
まことさんの学級では、体育の時間に、班ごとにダンスの発表をすることになりました。

まことさんの班の7人は、それぞれ、「青」、「黄」、「赤」、「白」、「茶」、「黒」、「ピンク」の色の手作りの衣服を着て、隊形Aと隊形Bでおどることにしました。

今、まことさんたちは、ノートに、次のように位置を表す番号をつけた、隊形Aの図と隊形Bの図をかいて、衣服の色の配置を決めようとしています。



隊形Aの図



隊形Bの図

問1 次の「隊形Aのときの色の配置のしかた」のように隊形Aのときの色の配置を決めます。

「青」と「茶」の間にできるだけ多くの色が入るときの色の配置を1通り見つけて、隊形Aの図の①～⑥の○の中に、そのときの色の名前を書き入れましょう。

「隊形Aのときの色の配置のしかた」

- ・⑦の位置には、「ピンク」が入る。
- ・「黄」と「白」の間には、1色入る。
- ・「黄」と「黒」の間には、2色入る。
- ・「青」と「赤」の間には、3色入る。

問2 次の「隊形Bのときの色の配置のしかた」のように隊形Bのときの色の配置を決めます。

このとき、「ピンク」が入る位置はいくつかに限られます。その位置をすべて見つけ、位置を表す番号を書きましよう。

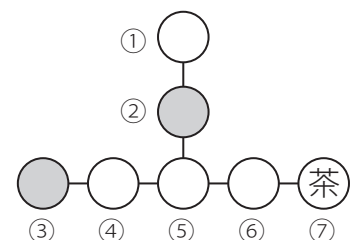
「隊形Bのときの色の配置のしかた」

- ・⑦の位置には、「茶」が入る。
- ・「青」と「赤」の間には、2色入る。
- ・「赤」と「黄」の間には、2色入る。
- ・「黒」と「白」の間に入る色の数と、「茶」と「黒」の間に入る色の数は同じ。

[注意] 1本の直線上に並んでいない2つの位置の間に入る色の数は、

(例)のように数えることとします。

(例)②と③の間に入る色の数は、④と⑤の2色。



ある駄菓子屋さんで、アイスクャンデー12本入りの箱が500円で売られていました。このアイスクャンデーの棒は、くじになっていて、当たりとはずれがあります。このアイスクャンデーについて、次のような広告がはり出されていました。

- 1箱につき、当たり棒は1本以上入っています。
- 1箱につき、はずれ棒は6本以上入っています。
- 当たり棒は、1ポイント・2ポイント・3ポイントの3種類あります。
- はずれ棒は、ポイントがありません。
- 1箱につき、当たり棒のポイントを合計すると、どの箱もすべて10ポイントになります。
- ★当たり棒のポイントを20ポイント集めると、アイスクャンデー1本(当たりつきを含む)と交換できます!
- ★アイスクャンデーの箱を3箱まとめて買うとレジにて100円引きします!

(1) 1箱買い、そのうち6本食べたところ、1ポイントが2本、3ポイントが1本当たりました。このあと、残り6本をすべて食べると、どの種類の当たり棒がでてくるのでしょうか。考えられるすべてのパターンを書きなさい。

※例：① □ポイントが○本、△ポイントが◎本

(2) 太郎さんと花子さんとリサさんの3人は、お金を出しあってアイスクャンデー1箱を買い、毎日1本ずつ食べて4日後の合計ポイントを競うことにしました。次の3人の会話をもとに〈記録表〉の空白に、それぞれのポイントを記入しなさい。ただし、はずれの場合は、「0」を記入しなさい。

花子「1日目は、私だけ当たりだったわ。2ポイント獲得ね。」

リサ「2日目は、こんどは私だけ当たりだわ。1ポイント獲得よ。」

太郎「3日目は、ぼくと花子ちゃんが食べたアイスクャンデーは同じポイントの当たりが出たね。」

リサ「3日目までのポイントを合計すると、私はまだ1ポイントしかないわ。」

花子「4日分のポイントをそれぞれ合計してみましょう。」

太郎「やったー！ぼくが一番だ。」

リサ「私と花子ちゃんは、合計ポイント数が同じになったね。」

〈記録表〉

	1日目	2日目	3日目	4日目	合計
太郎のポイント					
花子のポイント					
リサのポイント					

(3) 7500円で、最大何本のアイスクャンデーが食べられるでしょう。また、なぜそう考えたのか、わかりやすく説明しなさい。

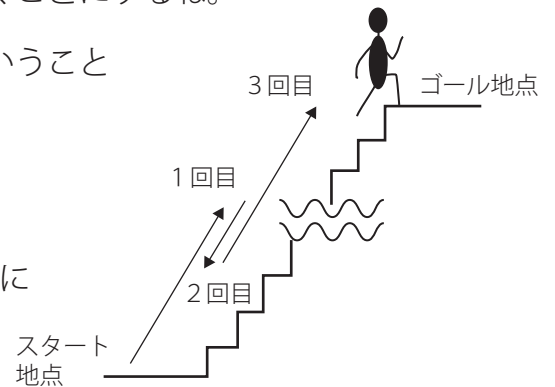
太郎さんと花子さんは、階段を使ったトレーニングを考えています。

花子：一番下のスタート地点から一番上のゴール地点まで行くことにするね。

太郎：決まった段数をのぼり、次に決まった段数をおりる、ということ
をくり返して、階段をのぼろう。

花子：のぼる段数とおりる段数はちがう段数にするね。また、
移動する回数は、のぼったりおりたりするたびに数えることに
しましょう。

太郎：決まった段数をのぼり終えてゴール地点につくような、
のぼる段数とおりる段数をみつきたいね。



(1) 35段の階段を3回目でぴったりゴールするとします。

そのときの、のぼる段数とおりる段数をかきましょう。

花子：階段が何段であっても、のぼる段数とおりる段数を 変えれば、3回目でゴールすることが
できそうね。

(2) 階段が何段であっても、3回目でぴったりゴールするとき、階段の段数、のぼる段数、おりる段数、
の3つの言葉を必ず使って、気づいたきまりをかきましょう。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それぞれに点数がついている6本の缶を、図1のように3列(ラインに近い方を1列目)に並び、ラインの手前からボールを1回だけ転がして缶を倒すゲームをします。

図2はこのゲームをするときの得点表です。

得点表には、缶の並びとともに、倒れた缶を●で、倒れなかった缶を○で表し、さらに、倒れた缶についている点数の合計点を記入します。

図1

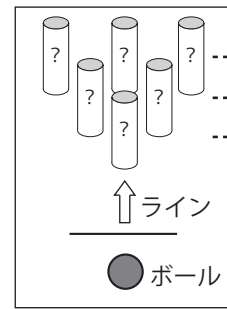
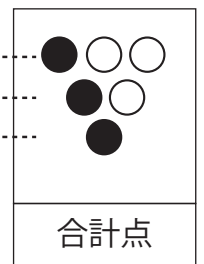
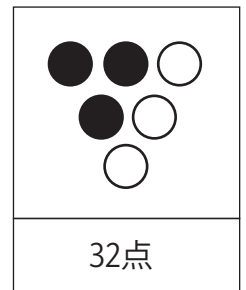


図2 得点表



- (1) 図3は、ゲームを1度行った得点表です。2列目の缶には、それぞれ1列目の缶の2倍の点数が、3列目の缶には、それぞれ1列目の缶の3倍の点数がついています。1列目の缶の点数を書きなさい。

図3 得点表



- (2) 図4のような、1点、3点、5点、7点、9点、11点の点数がついている6本の缶を並べてゲームをしました。このゲームを3度行った得点表が、図5のように表されたとき、何点の缶がどこに置かれていたのか書きなさい。ただし、缶の並びは3度とも同じとします。

図4 用意した缶

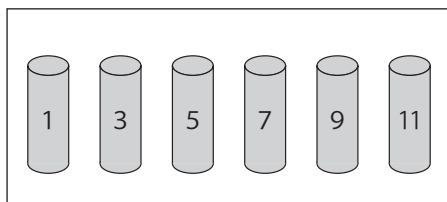
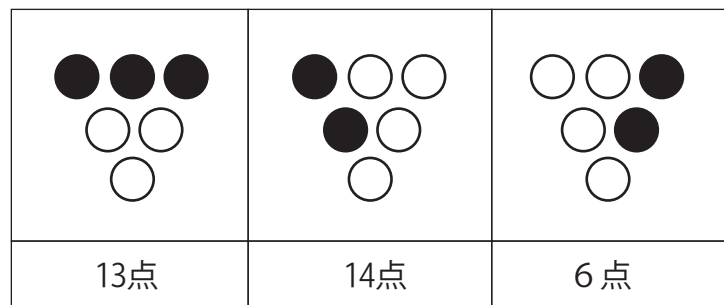


図5 得点表



☆公立中高一貫校 適性検査 2013年 宮城県共通

体験コーナーでは、えさとしてリンゴ、ナシ、オレンジ、バナナが売られていました。それらの値段の関係は次のとおりです。あとの(1)、(2)の問題に答えなさい。

リンゴ1個の値段は、オレンジ1個とバナナ1本を合わせた値段と同じです。
ナシ1個の値段は、リンゴ1個とバナナ1本を合わせた値段と同じです。
オレンジ3個の値段は、ナシ2個の値段と同じです。

- (1) リンゴ、ナシ、オレンジ、バナナを値段の安い方から順にならべなさい。
- (2) リンゴ1個の値段は、バナナ1本の値段の何倍か、答えなさい。

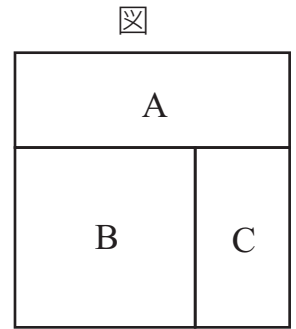
ひろしさんとまりこさんは、掲示用の板にはることのできない作品を展示室用の部屋にならべることになりました。そこで、展示場所の分け方を考えています。次の会話文をもとに、問いに答えなさい。

まりこ「展示場所を分けようと思うんだけど。」

ひろし「全体が正方形になっているんだね。どんな分け方にしようか。」

まりこ「この図を見てよ。作品の大きさを考えて、Aの場所を低学年、
Bの場所を中学年、Cの場所を高学年にしたいの。」

図のように、正方形の展示場所を、Aの部分は面積が 48m^2 の長方形、
Cの部分は面積が 32m^2 の長方形にしたところ、Bの部分は正方形になりました。
Bの部分の面積を求めなさい。



算数クイズの発表には、2けたの数のかけ算についての問題がありました。

たかし「この問題はどう考えればいいのかな。」

あいこ「同じカタカナは同じ数を表すということがヒントになりそうだよ。アイにウをかけたものがアイになっているから、ウが「①」だとわかるよ。」

たかし「なるほど。そして次に、オとイを足したくり上がりの数をアに足したものがエだから、エはアより「②」だけ大きいことがわかるね。」

■問題

「①」、「②」、ア、イ、エ、オにあてはまる数をそれぞれ答えなさい。

算数クイズ

[問題]

$$\begin{array}{r} \text{アイ} \\ \times \text{ウエ} \\ \hline \text{オア} \\ \text{アイ} \\ \hline \text{エウア} \end{array}$$

[条件]

- ・同じカタカナは同じ数を表します。
- ・ア～オはそれぞれ異なる1けたの数です。

まさひろさんたちは、運動場に集合し、図1のように校舎に向かって縦2列で並んでいます。縦1列を一つの班とし、三つの班に分かれて見学するために、図2の黒丸の位置の人が移動し、縦3列に並び替えることにしました。図3は、縦4列に並び替えるときの図であり、黒丸の位置の人が矢印の方向に1歩移動することを表しています。

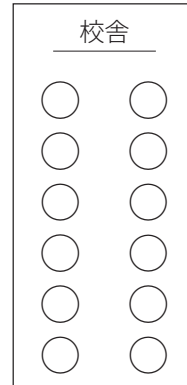


図1

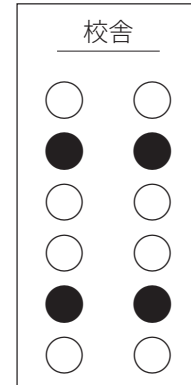


図2

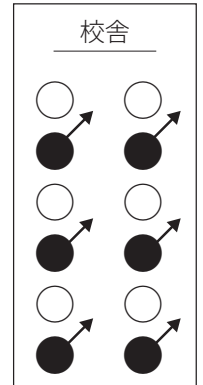


図3

1列を4人とした縦3列に並び替えるときは、図2の黒丸の位置の人がどの方向に移動すればよいですか。図3にならって、図2に矢印で示してください。

ただし、移動は1歩とし、移動後の列の前後の間隔が同じでなくてもよいこととします。

☆公立中高一貫校 適性検査 2015年 東京都立小石川中等教育学校

父さん：もうすぐ誕生日だね。

ようこ：今年はカレンダーの真ん中にあるの。

お父さん：3月18日だね。

ようこ：そうそう。

お父さん：カレンダーの数に関する性質を探してみよう。

ようこ：どんな性質があるのかしら。

お父さん：誕生日の18とその上の11と下の25の三つの日にちの数の和は54になるね。54と18はどんな関係があるかな。

ようこ：54は18の3倍になっているわ。

お父さん：縦に三つの数が並んでいる場合は、その三つの数の和が、どこでも真ん中の日にちの数の3倍になっているよ。

ようこ：横に三つの数が並んでいる場合も、ななめに三つの数が並んでいる場合も成り立つわ。どうしてかな。

お父さん：このカレンダーには横に数が七つ並んでいるよね。

ようこ：そうか、11は18ひく7で、25は18たす7だね。だから、それら三つの数の和を表す式を書くと、 $(18-7)+18+(18+7)$ となるから、 $18+18+18=18\times 3$ になるのね。

お父さん：カレンダーはおもしろいね。

ようこ：別の性質はないかな。

お父さん：そうだね。7でわってみて、余りに注目するとどうだろう。

2015年 3月

	日	月	火	水	木	金	土
第1週	1	2	3	4	5	6	7
第2週	8	9	10	11	12	13	14
第3週	15	16	17	18	19	20	21
第4週	22	23	24	25	26	27	28
第5週	29	30	31				

■問題1

図1の第1週から第4週のように、週の全ての曜日に日にちが入っている場合、その七つの数の和を7でわったときの余りを考えます。どんな年のどんな月の週を選んでも、余りは同じになりますか。それとも、選んだ週によって異なりますか。また、その理由について説明しなさい。ただし、カレンダーには前の月や次の月の日にちは書かれていないものとします。

お父さんは別のカレンダーに○, ×, △, □, ◎, ☆の記号を順番に付けました(図3)。

お父さん：今度は別のカレンダーの3月のそれぞれの日にちに6種類の記号を順番に付けたよ。

ようこ：6個おきに同じ記号になるのね。そう言えば、2年前の私の誕生日はお兄さんの卒業式だったわ。

お父さん：2013年3月18日の記号はどうなるかな。

2015年 3月

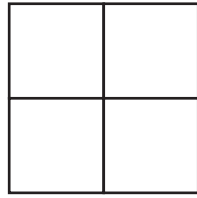
	日	月	火	水	木	金	土
第1週	1 ○	2 ×	3 △	4 □	5 ◎	6 ☆	7 ○
第2週	8 ×	9 △	10 □	11 ◎	12 ☆	13 ○	14 ×
第3週	15 △	16 □	17 ◎	18 ☆	19 ○	20 ×	21 △
第4週	22 □	23 ◎	24 ☆	25 ○	26 ×	27 △	28 □
第5週	29 ◎	30 ☆	31 ○				

■問題2

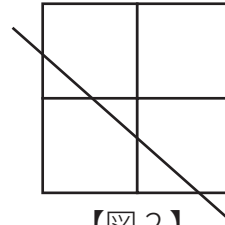
お父さんが「2013年3月18日の記号はどうなるかな。」と言っています。

2013年3月18日はどの記号になるか答え、その理由も説明しなさい。

問題1 みなみさんは【図1】のように、たてに2個、横に2個、同じ大きさの正方形をすきまなく並べました。なるべく多くの正方形を通るように直線を1本引くと、【図2】のように、直線は3個の正方形を通ることがわかりました。



【図1】



【図2】

次にみなみさんは、たてに3個、横に3個、同じ大きさの正方形をすきまなく並べました。なるべく多くの正方形を通るように直線を1本引くとき、この直線が通る正方形の個数を答えなさい。ただし、直線が正方形の頂点だけを通る場合と、直線が辺にぴったりと重なる場合は、その正方形を通っていないものとしてします。

問題2 みなみさんは、たてに4個、横に7個、同じ大きさの正方形をすきまなく並べて、長方形を作りました。この長方形に対角線を1本引くとき、この対角線が通る正方形の個数を答えなさい。ただし、対角線が正方形の頂点だけを通る場合は、その正方形を通っていないものとしてします。

☒ ☆目次 解答編

■ 2007年	さいたま市立浦和中学校	1
■ 2007年	宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校	4
■ 2007年	沼津市立沼津高等学校中等部	8
■ 2007年	静岡県共通	10
■ 2007年	長崎県共通(いす)	13
■ 2007年	長崎県共通(花だん)	17
■ 2007年	和歌山県立古佐田丘中学校	18
■ 2008年	徳島県共通	20
■ 2008年	東京都立白おう高等学校附属中学校	21
■ 2009年	さいたま市立浦和中学校	23
■ 2009年	愛媛県共通	26
■ 2009年	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校	28
■ 2009年	京都府立洛北高等学校附属中学校	30
■ 2009年	佐賀県共通	33
■ 2010年	さいたま市立浦和中学校	35
■ 2010年	京都市立西京高等学校附属中学校	37
■ 2010年	静岡県共通	40
■ 2010年	千葉県立千葉中学校	42
■ 2010年	東京都立南多摩中等教育学校	44
■ 2010年	福岡県共通	48
■ 2011年	京都市立西京高等学校附属中学校	53
■ 2012年	岡山県立岡山操山中学校	57
■ 2012年	千葉県立千葉中学校	59
■ 2013年	宮城共通	62
■ 2013年	熊本県共通	64
■ 2013年	長崎県共通	66
■ 2015年	愛媛県共通	69
■ 2015年	東京都立小石川中等教育学校	70
■ 2016年	横浜市立南高等学校附属中学校	72

解答

本問は覆面算(ふくめんざん)です。

覆面算とは, 0から9の数字がそれぞれに対応する別の記号に置き換えられた計算式が与えられ, どの記号が何の数字に対応しているかを推理し, 計算式を導き出すパズルのことをいいます。

この問題の解法のポイントは, 確実に決まる部分から考えていくことだよ!



一の位の $C+F=C$ に着目します。

Cにある数を足しても変わらないということは,

$$F=0$$

しかありません。

				一の位	
				↓	
	A	B	C	D	C
+	C	E	F	A	F
	D	C	A	B	C

百の位の $C+F=A$ に着目します。

$$F=0$$

と決まったので, この式に $F=0$ を入れると

$C=A$?? となってしまいますが, これは

十の位から1くり上がったためです。

つまり,

$$A=C+1,$$

$$D+A=10+B$$

となります。 十の位は1くり上がるため

					百の位
					↓
	A	B	C	D	C
+	C	E	0	A	0
	D	C	A	B	C

次に, 千の位, 万の位に着目すると, 次の2通りの場合が考えられます。

① 千の位がくり上がらない場合 → $B+E=C, A+C=D$

② 千の位がくり上がる場合 → $B+E=10+C, 1+A+C=D$

					万の位	千の位
					↓	↓
	A	B	C	D	C	
+	C	E	F	A	F	
	D	C	A	B	C	

① 千の位がくり上がらない場合 → $B+E=C, A+C=D$

$B+E=C$ より

B, Eは1以上で, 最小でも $1+2=3$ なので

Cは3以上,

$A=C+1$ より

Aは4以上とわかります。

さらに,

Cは3以上, Aは4以上で, $A+C=D$ より

D は $3(C)+4(A)=7$ または $4(C)+5(A)=9$

のどちらかになります。

複数の選択がある場合には「場合分け」して考えてみよう!



■ $D=7$ ($C=3, A=4$)の場合

わかっている数字を入れると、次のようになります。

$$\begin{array}{r} \boxed{4} \boxed{B} \boxed{3} \boxed{7} \boxed{3} \\ + \boxed{3} \boxed{E} \boxed{0} \boxed{4} \boxed{0} \\ \hline \boxed{7} \boxed{3} \boxed{4} \boxed{B} \boxed{3} \end{array}$$

やったあ！答えが見つかった！



十の位の $7+4=11$ より、
 B は1と決まり、
 $1+E=3$ より
 $E=2$ と決まります。

■ $D=9$ ($C=4, A=5$)の場合

わかっている数字を入れると、次のようになります。

$$\begin{array}{r} \boxed{5} \boxed{B} \boxed{4} \boxed{9} \boxed{4} \\ + \boxed{4} \boxed{E} \boxed{0} \boxed{5} \boxed{0} \\ \hline \boxed{9} \boxed{4} \boxed{5} \boxed{B} \boxed{4} \end{array}$$

そっか。この場合はダメだったか…



十の位の $9+5=14$ より、
 B は4となりますが、
 C と同じになってしまうので、この場合はダメです。

② 千の位がくり上がる場合 → $B+E=10+C, 1+A+C=D$

$A=C+1$ を

$1+A+C=D$ ($C+1+A=D$)の式に入れて

$2 \times A=D$

となります。

また、 $D+A=10+B$ より

A と D の和は10以上なので、

これらをみたら、 A, D の数字は、

$A=4, D=8$ と決まります。

さらに、 $A=C+1$ より

$C=3$ と決まります。

$2A=D$ をみたらのは
 $(A, D)=(1, 2)(2, 4)(3, 6)(4, 8)$ 。
 このうち、 A と D の和は10以上となるのは、
 $(A, D)=(4, 8)$ だけだよ。



$$\begin{array}{r} \boxed{4} \boxed{B} \boxed{3} \boxed{8} \boxed{3} \\ + \boxed{3} \boxed{E} \boxed{0} \boxed{4} \boxed{0} \\ \hline \boxed{8} \boxed{3} \boxed{4} \boxed{B} \boxed{3} \end{array}$$

このとき、十の位は

$8 + 4 = 12$ より、

Bは2と決まりますが、

千の位の

$2 + E = 3$ より

$E = 1$ になってしまい、くり上がらないのでこの場合もダメです。

$$\begin{array}{r}
 \boxed{4} \boxed{B} \boxed{3} \boxed{8} \boxed{3} \\
 + \boxed{3} \boxed{E} \boxed{0} \boxed{4} \boxed{0} \\
 \hline
 \boxed{8} \boxed{3} \boxed{4} \boxed{B} \boxed{3}
 \end{array}$$

そっか。この場合もダメだったか…



以上より、

$\boxed{7} \boxed{3} \boxed{4} \boxed{1} \boxed{3}$ ……(答え)

($\boxed{D} \boxed{C} \boxed{A} \boxed{B} \boxed{C}$)

難しかった…



解答

問い1

下線部(イ)の式

$$9 \times 3 + 7 \times 3 + 2 \times 3 + 1 \times 3 + 8 \times 3 + 0 \times 3$$

の赤の数字は

バーコード「4 9 5 7 9 2 5 1 9 8 3 0」の偶数番目の数字になっています。

また、 $9 \times 3 + 7 \times 3 + 2 \times 3 + 1 \times 3 + 8 \times 3 + 0 \times 3$

は

$$(9 + 7 + 2 + 1 + 8 + 0) \times 3$$

偶数番目の数字を合計した数

と変形できます。

よって、

下線部(イ)の式は

「バーコードの偶数番目の数字を合計した数に3をかけている。」……(答え)

※「バーコードの偶数番目のそれぞれの数字に3をかけた数を合計している」でも正解です。

この変形は因数分解といって、分配法則の逆の操作になるよ。(因数分解は中学校で習うよ)
 因数分解： $\bullet \times \blacktriangle + \bullet \times \blacksquare = \bullet \times (\blacktriangle + \blacksquare)$
 分配法則： $\bullet \times (\blacktriangle + \blacksquare) = \bullet \times \blacktriangle + \bullet \times \blacksquare$



よゆう
余裕ね!

問い2

問い2, 3とも、問題文に書いてある手順通りに計算すればいいよ。計算ミスに気をつけようね!



□に4を入れた「4 9 0 2 4 0 2 0 6 8 4 9 2」の最後の数字の「2」をのぞいた「4 9 0 2 4 0 2 0 6 8 4 9」を問題文の手順通りに計算していきます。

「(ア) 奇数番目の数字を合計します。」より

$$4 + 0 + 4 + 2 + 6 + 4 = 20$$

「4 9 0 2 4 0 2 0 6 8 4 9」

赤字が奇数番目の数字

次に、「偶数番目の数字を合計した数に3をかける」ので

$$(9 + 2 + 0 + 0 + 8 + 9) \times 3 = 28 \times 3 = 84$$

緑字が偶数番目の数字

(※ $9 \times 3 + 2 \times 3 + 0 \times 3 + 0 \times 3 + 8 \times 3 + 9 \times 3 = 84$ でもよいです。)

「この二つをたした「116」を「10」で割った余りを求め…」より

$$20 + 84 = 104$$

$$104 \div 10 = 10 \text{ 余り } 4$$

「その余りを「10」から引いた数」より

$$10 - 4 = 6$$

↑
余り

この「6」はバーコードの数字の一番最後の数字の「2」と合わないので、バーコードを正しく読みとったと言えない。……(答え)

これは簡単だね!



そのように考えた理由は、上記をまとめて解答例は、次のようになります。

奇数番目の数字を合計すると、

$$4 + 0 + 4 + 2 + 6 + 4 = 20$$

次に、偶数番目の数字を合計した数に3をかけると、

$$(9 + 2 + 0 + 0 + 8 + 9) \times 3 = 28 \times 3 = 84$$

この二つをたしたときの数を「10」で割り余りを求めると、

$$20 + 84 = 104,$$

$$104 \div 10 = 10 \text{ 余り } 4$$

この余りを「10」から引くと、

$$10 - 4 = 6$$

この「6」はバーコードの数字の一番最後の数字の「2」と合わないので、バーコードを正しく読みとったと言えない。

問い3

「4 9 7 8 5 7 1 0 1 □ 7 2 3」の最後の数字の3をのぞいた

「4 9 7 8 5 7 1 0 1 □ 7 2」を問い2と同様に計算していきます。

「(ア) 奇数番目の数字を合計します。」より

$$4 + 7 + 5 + 1 + 1 + 7 = 25 \quad \text{☞ 「4 9 7 8 5 7 1 0 1 □ 7 2」}$$

赤字が奇数番目の数字

次に「偶数番目の数字を合計した数に3をかける」ので

$$(9 + 8 + 7 + 0 + \square + 2) \times 3 \quad \text{☞ 「4 9 7 8 5 7 1 0 1 □ 7 2」}$$

緑字が偶数番目の数字



$$= (26 + \square) \times 3 = 26 \times 3 + \square \times 3 = 78 + \square \times 3 \quad \leftarrow \text{分配法則: } (\triangle + \square) \times \circ = \triangle \times \circ + \square \times \circ$$

上で計算した2つを足して

$$25 + 78 + \square \times 3 = 103 + \square \times 3$$

ここで、「103 + □ × 3」の「10で割った余りを求める」

ということは、

「103 + □ × 3」の「一の位の数を求める」

ということと同じ意味になります。

ココに気づけるかがポイントだね！
 例えば、 $99 \div 10 = 9$ 余り 9
 99の一の位の数は9。
 $103 \div 10 = 10$ 余り 3
 103の一の位の数は3。
 同じになっているよね！



ここで、「4 9 7 8 5 7 1 0 1 □ 7 2 3」の最後の数字は「3」より、

「103 + □ × 3」の「10で割った余り」を10から引いた数が「3」、

|| 同じこと！

「103 + □ × 3」の「一の位の数字」を10から引いた数も「3」です。

つまり、

「103 + □ × 3」の「一の位の数字」が「7」になるということです。

なるほど！そういうことか！！



よって、

□に1, 2, 3, ……と入れて計算していくと、

1のとき, $103 + 1 \times 3 = 106$ より 一の位の数字は6,

2のとき, $103 + 2 \times 3 = 109$ より 一の位の数字は9,

3のとき, $103 + 3 \times 3 = 112$ より 一の位の数字は2,

4のとき, $103 + 4 \times 3 = 115$ より 一の位の数字は5,

5のとき, $103 + 5 \times 3 = 118$ より 一の位の数字は8,

6のとき, $103 + 6 \times 3 = 121$ より 一の位の数字は1,

7のとき, $103 + 7 \times 3 = 124$ より 一の位の数字は4,

8のとき, $103 + 8 \times 3 = 127$ より 一の位の数字は7,

以上より, □は 8 ……(答え)

考え方は, 上記をまとめて解答例は, 次のようになります。

奇数番目の数字を合計すると、

$$4 + 7 + 5 + 1 + 1 + 7 = 25$$

偶数番目の数字を合計した数に3をかけると、

$$(9 + 8 + 7 + 0 + \square + 2) \times 3 = 78 + \square \times 3$$

この2つの数を足すと、

$$103 + \square \times 3 \text{ となる。}$$

ある数を10で割った余りは, ある数の一の位と同じ数字になる。

つまり, チェックデジットはある数の一の位を10から引いた数字ということになる。

バーコードの最後の数字は3なので、

「 $103 + \square \times 3$ 」の一の位の数字を10から引いた数字が3である。

つまり, 「 $103 + \square \times 3$ 」の一の位の数字は7になる。

よって, □は8だとわかる。

あとは簡単だね!



解答

問題 1

問題 1, 2 とも, 問題文に書いてある手順通りに計算すればいいよ。計算ミスに気をつけようね!



「まず, 一番左の数字から一つ飛ばしに足すよ。」より

$4 + 0 + 1 + 2 + 6 + 7 = 20$ 『4 9 0 2 1 0 2 0 6 1 7 ?』

赤字が奇数番目の数字 ココがチェックデジット

「今度は左から 2 番目の数字から一つ飛ばしに足して 3 を掛けるよ。」より

$(9 + 2 + 0 + 0 + 1) \times 3 = 36$ 『4 9 0 2 1 0 2 0 6 1 7 ?』

緑字が偶数番目の数字 ココがチェックデジット

問題文の「この99にさっきの18を足すと…」と同じように, 上の 2 つの数を足します。

一番左の数字から
一つ飛ばしに足した数

左から 2 番目の数字から
一つ飛ばしに足して 3 を掛けた数

$20 + 36 = 56$

一の位の数字

「この数字の一の位の数字を 10 から引いたもの……チェックデジットだよ。」より

$10 - 6 = 4$

よって, チェックデジット (? の部分の数字) は, 4 …… (答え)

よゆう
余裕ね!



考え方は, 上記をまとめて解答例は, 次のようになります。

一番左の数字から一つ飛ばしに足した数は,

$4 + 0 + 1 + 2 + 6 + 7 = 20$

左から 2 番目の数字から一つ飛ばしに足して 3 を掛けた数は,

$(9 + 2 + 0 + 0 + 1) \times 3 = 36$

この 2 つの数を足すと,

$20 + 36 = 56$

この数字の一の位の数字を 10 から引いたものがチェックデジットなので

チェックデジットは, $10 - 6 = 4$

問題2

「まず、一番左の数字から一つ飛びに足すよ。」より

$4 + 6 + 2 + 0 + 3 + 5 = 20$  『4 9 6 5 2 ? 0 1 3 2 5 4』

赤字が奇数番目の数字 ココがチェックデジット

「今度は左から2番目の数字から一つ飛びに足して3を掛けるよ。」より

$(9 + 5 + ? + 1 + 2) = 17 + ?$  『4 9 6 5 2 ? 0 1 3 2 5 4』

これに3をかけると

緑字が偶数番目の数字 ココがチェックデジット

$3 \times (17 + ?) \times 3 = 3 \times 17 + 3 \times ? = 51 + 3 \times ?$ ← 分配法則: $\bullet \times (\blacktriangle + \blacksquare) = \bullet \times \blacktriangle + \bullet \times \blacksquare$

問題文の「この99にさっきの18を足すと…」と同じように、上の2つの数を足します。

一番左の数字から一つ飛びに足した数 左から2番目の数字から一つ飛びに足して3を掛けた数

$20 + 51 + 3 \times ? = 71 + 3 \times ?$

「この数字の一の位の数字を10から引いたもの……チェックデジットだよ。」より

$71 + 3 \times ?$ の一の位の数字を10から引いたものが「4」とわかります。

よって、 $71 + 3 \times ?$ の一の位の数字は6です。

? に1, 2, 3, ……と入れて計算していくと

- 1のとき、 $71 + 3 \times 1 = 74$ より 一の位の数字は4,
- 2のとき、 $71 + 3 \times 2 = 77$ より 一の位の数字は7,
- 3のとき、 $71 + 3 \times 3 = 80$ より 一の位の数字は0,
- 4のとき、 $71 + 3 \times 4 = 83$ より 一の位の数字は3,
- 5のとき、 $71 + 3 \times 5 = 86$ より 一の位の数字は6 となる。

以上より、? は 5 ……(答え)

考え方は、上記をまとめて解答例は、次のようになります。

一番左の数字から一つ飛びに足した数は、

$4 + 6 + 2 + 0 + 3 + 5 = 20$

左から2番目の数字から一つ飛びに足して3を掛けた数は、

$(9 + 5 + ? + 1 + 2) \times 3 = 51 + 3 \times ?$

この2つの数を足すと、

$71 + 3 \times ?$

この数字の一の位の数字を10から引いたものが4なので

$71 + 3 \times ?$ の一の位の数字は6とわかる。よって、? は5。

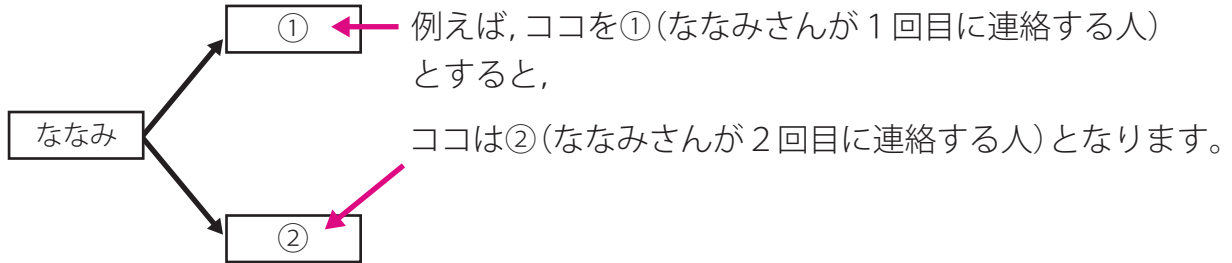
10 - ● = 4 ということは●、つまり「71 + ?」の一の位の数字は6だよな!



解答

(1)

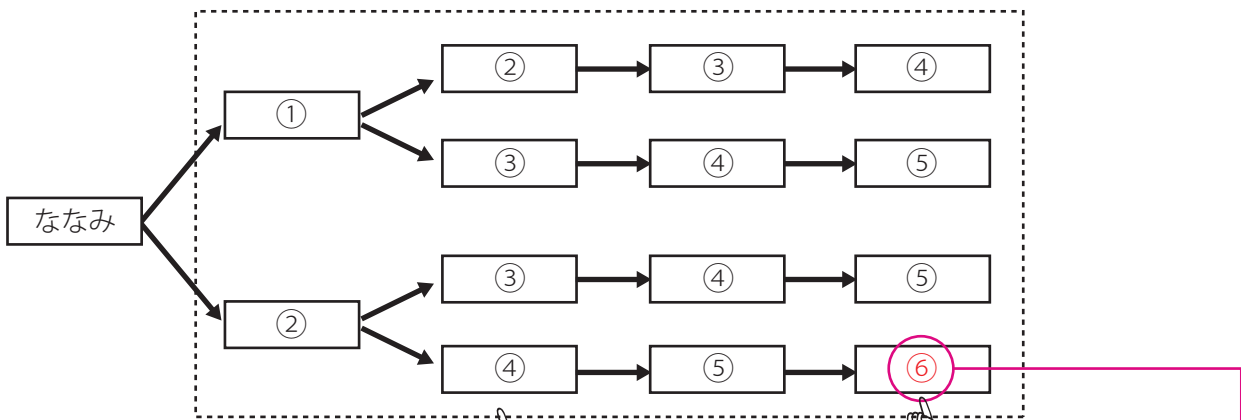
ななみさんが連絡を始めてから、他の人に連絡が伝わるまでにかかる時間(分)を○の中の数字で表します。



連絡網の条件

- 「・1回の連絡につき,1人にしか伝えられない。」
- 「・1回の連絡につき,1分かかる。」より

連絡網Aに丸数字を記入すると,次のようになります。



□ は全部で14個(14人)あるよね!



この一番大きな数字が最終的にかかる時間だね!



よって,

ななみさんが出した情報が他の14人に伝わるには,

6分 ……(答え)かかる。



(2)

本問のポイントは、4分で連絡するということは、

「1分後に連絡を受けた人は、次に3人まで連絡できる。」

(①から線を3つのばせる)

「2分後に連絡を受けた人は、次に2人まで連絡できる。」

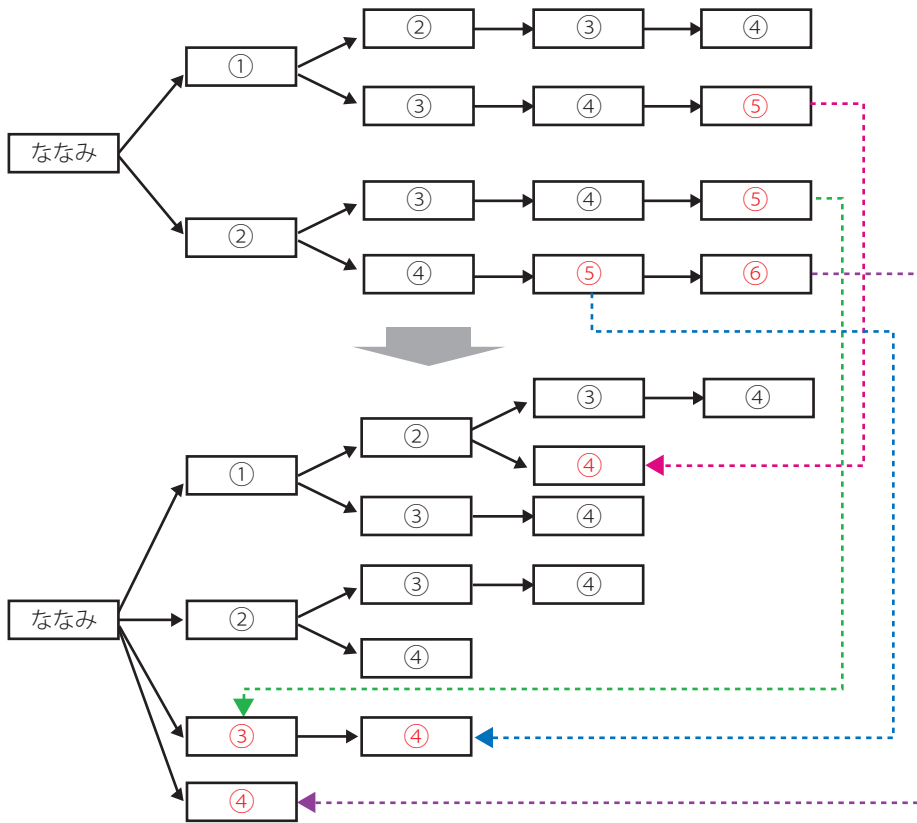
(②から線を2つのばせる)

「3分後に連絡を受けた人は、次に1人まで連絡できる。」

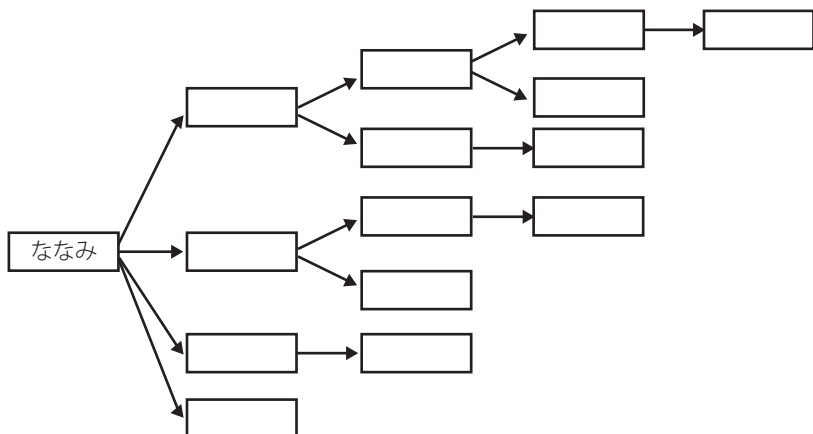
(③から線を1つのばせる)

ということです。

4分で全員に連絡できるようにするには、⑤(5分後に連絡を受ける人)、⑥(6分後に連絡を受ける人)が④をこえない位置に移動すればよいですね。



よって、答えの1つは、次のようになります。



別解

4分で連絡するということは、

「1分後に連絡を受けた人は、次に3人まで連絡できる。」

(①から線を3つのばせる)

「2分後に連絡を受けた人は、次に2人まで連絡できる。」

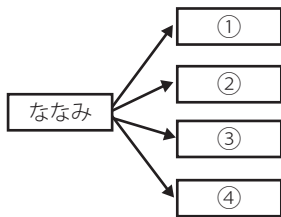
(②から線を2つのばせる)

「3分後に連絡を受けた人は、次に1人まで連絡できる。」

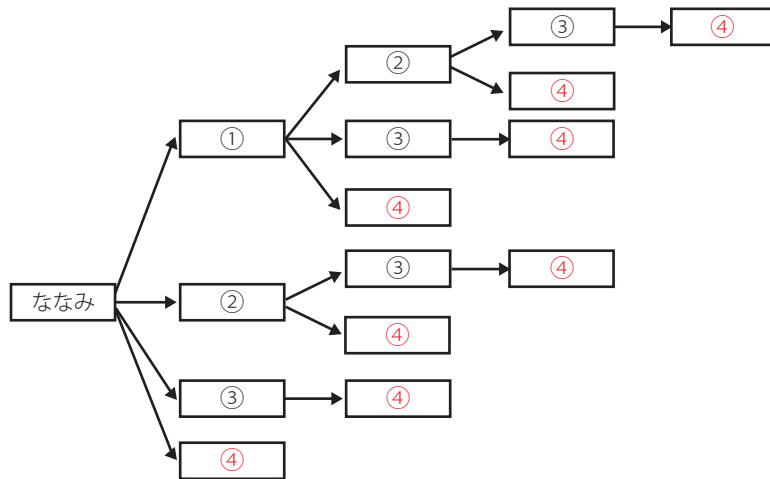
(③から線を1つのばせる)

ということです。

まずは、ななみさんは、4分で4人に連絡することができます。



上の条件に合うように線をのばしていくと、次ようになります。4分で15人に連絡することができます。



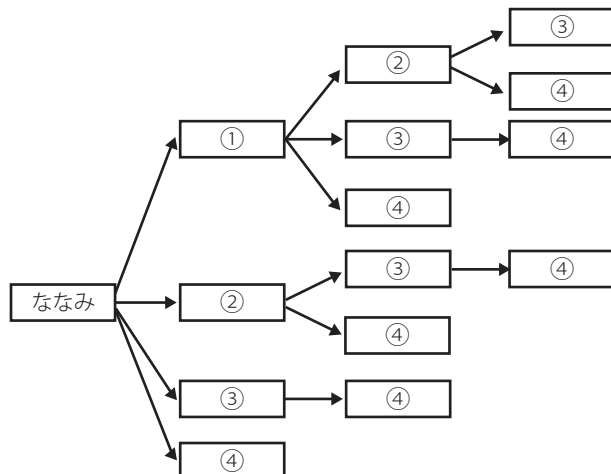
丸数字の数をかぞえると15個
あるので、15人に連絡できること
がわかるね！



問いでは、14人に連絡が伝わればいいので、上記8つの④のうちのどれか1つをとります。

これより、答えは8通りあります。

答えの1つは、次のようになります。



解答

(1) ア,イについて

問題文の「3分計を2回, 5分計を3回使うと, 21分の時間をはかることができます。」とありますが,

これは, $3(\text{分}) \times 2(\text{回}) + 5(\text{分}) \times 3(\text{回}) = 21(\text{分})$ という計算によって, 求めることができます。

そこで, 3分計を使う回数を●(回), 5分計を使う回数を▲(回)として,

$3(\text{分}) \times \text{●}(\text{回}) + 5(\text{分}) \times \text{▲}(\text{回}) = 25(\text{分})$ となる●と▲の組み合わせを考えればよいです。

ただし, ●と▲は回数なので必ず整数になります。また, ●と▲を合計した値は, 25(分)より小さくならなければいけないので, ●は0以上8以下($0 \leq \text{●} \leq 8$), ▲は0以上5以下($0 \leq \text{▲} \leq 5$)となります。

▲=0のとき,

$$3 \times \text{●} + 5 \times 0 = 25$$

$$3 \times \text{●} = 25 \text{ より}$$

これをみたら●はありません。

▲の方が0, 1, 2, 3, 4, 5と候補の数が少ないので, ▲から考えることがポイントだよ!



▲=1のとき,

$$3 \times \text{●} + 5 \times 1 = 25$$

$$3 \times \text{●} = 20 \text{ より}$$

これをみたら●はありません。

▲=2のとき,

$$3 \times \text{●} + 5 \times 2 = 25$$

$$3 \times \text{●} = 15 \text{ より}$$

これをみたら●は5(回)。

やったあ! 答えが見つかった!



▲=3のとき,

$$3 \times \text{●} + 5 \times 3 = 25$$

$$3 \times \text{●} = 10 \text{ より}$$

これをみたら●はありません。

▲=4のとき,

$$3 \times \text{●} + 5 \times 4 = 25$$

$$3 \times \text{●} = 5 \text{ より}$$

これをみたら●はありません。

▲=5のときは, 問題文に示されている方法です。

以上より,

3分計は5回, 5分計は2回となるので,

ア……5, イ……2 ……(答え)



できた!!

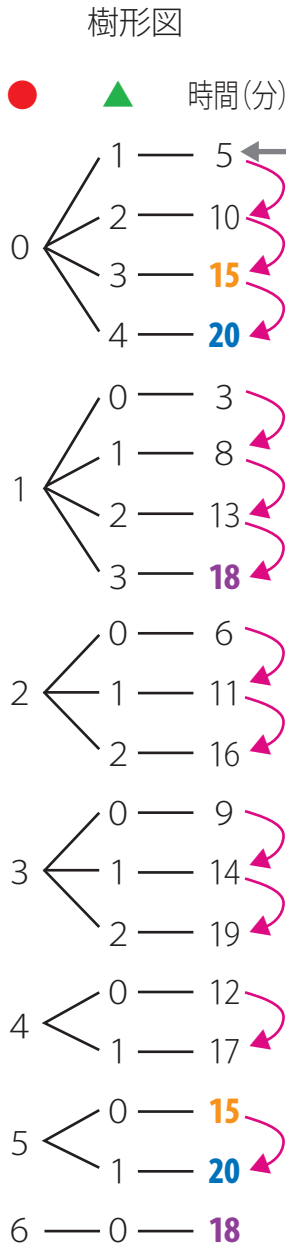


解答

(2), (3)

(1)より,はかることのできる時間(分)は,「3(分)×●(回)+5(分)×▲(回)」の式で表されます。

これより,^{じゅけいず}樹形図または表を用いて,はかることのできる時間(分)を求めると,次のようになります。



例えば,ココは「 $3 \times \bullet + 5 \times \blacktriangle$ 」の式に
●=0, ▲=1を入れて
 $3 \times 0 + 5 \times 1 = 5$ となるんだね!



は, 5ずつ増えている
から, 最初だけ計算すれば,
わかるよ!



表

●	▲	時間(分)
0	1	5
	2	10
	3	15
	4	20
1	0	3
	1	8
	2	13
	3	18
2	0	6
	1	11
	2	16
3	0	9
	1	14
	2	19
4	0	12
	1	17
5	0	15
	1	20
6	0	18

面倒だけど樹形図や表を使って
すべての場合を書いていく方法が
確実に早いよ!



同じ色の15分, 18分, 20分
が二通りあるよね!
表を見れば簡単, 簡単!



3分から20分の中で
4分と7分だけないよね!



以上, 樹形図または表より,

はかる方法が二通りあるのは, 15分, 18分, 20分 ……(答え)

はかることができない時間は, 4分, 7分 ……(答え)

解答

📖 考え方

問題文の3つの例から、直線と分かれる部分とのきまりを見つけることがポイントです。

問題文より、図1のように、円形の画用紙に直線を1本引くと画用紙は**2つ**の部分に分かれます。

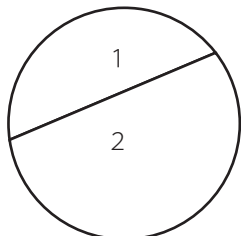


図1

問題文より、図2のように、(すでに引いてある**1本**の直線(緑線)と交わるように)直線(紫線)を引くと、画用紙は**4つ**の部分に分かれます。

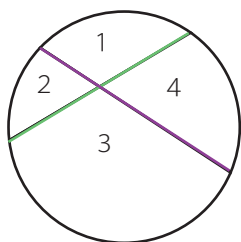


図2

確かに4つに分かれていますね!



問題文より、図3のように、すでに引いてある**2本**の直線(緑線)と交わるように直線(紫線)を引くと、画用紙は**7つ**の部分に分かれます。

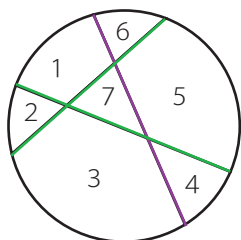


図3

確かに7つに分かれていますね!



そこで、図4のように、すでに引いてある**3本**の直線(緑線)と交わるように直線(紫線)を引くと、画用紙は**11個**の部分に分かれます。

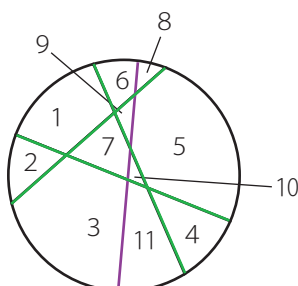


図4

実際に直線を引いてみて数えてみよう!
そこで…なにか気づかないかな?



これらより、きまりを考えると

(すでに引いてある 0 本の直線と交わるように)……2つの部分に分かれます。

2つ増える

どんな決まりがあるのかな…

すでに引いてある 1 本の直線と交わるように……4つの部分に分かれます。

1本増える

3つ増える

+1

すでに引いてある 2 本の直線と交わるように……7つの部分に分かれます。

1本増える

4つ増える

+1

すでに引いてある 3 本の直線と交わるように……11個の部分に分かれます。

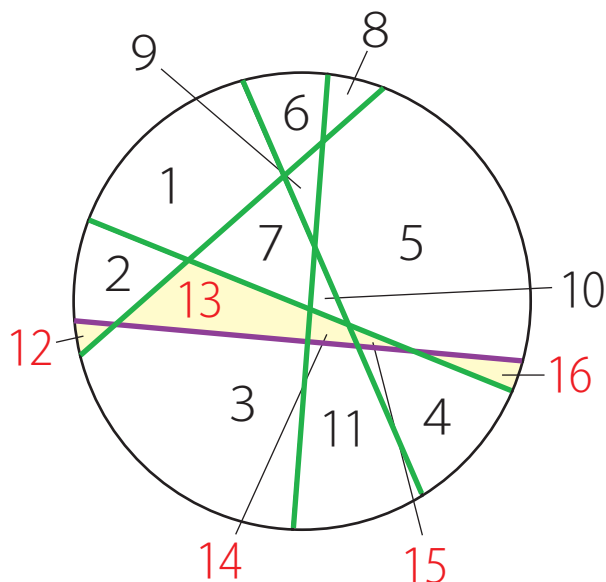
1本増える

5つ増える

+1

上記より、すでに引いてある 4 本の直線と交わるように直線を引くと、16個の部分に分かれることが推測できます。

実際に、すでに引いてある 4 本の直線(緑線)と交わるように直線(紫線)を引いてみると、次のように、16個の部分(黄色が増えた部分)に分かれました。



わかるとうれしい!!



以上より、

(4) 16 ……(答え)

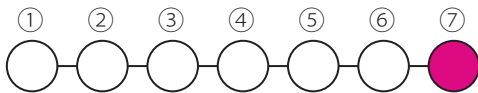
解答

📖 考え方

条件やヒント(会話文)などが与えられている場合、条件やヒントから答えをしぼっていきこう。本問は、色が入る位置の候補が少ない条件から考えていくことがポイントだよ！

問1

『⑦の位置には、「ピンク」が入る。』より、
次のようになります。



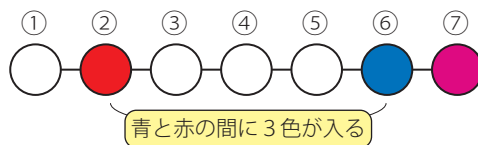
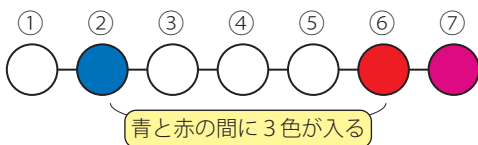
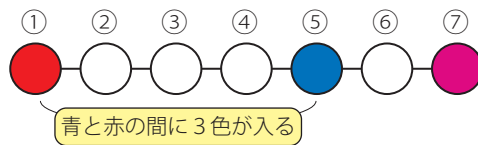
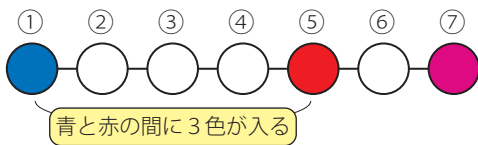
これは簡単だね！



『「青」と「赤」の間には、3色入る。』より、

次のように、『①と⑤が「青」または「赤」の色となる場合』と

『②と⑥が「青」または「赤」の色となる場合』の4通りが考えられます。

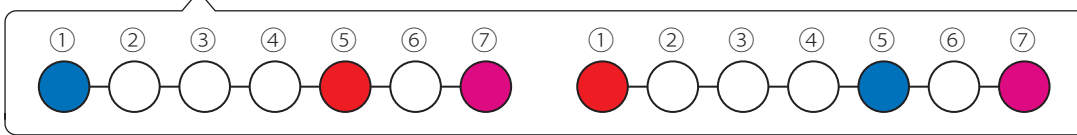


◎この4通りの場合について、考えてみます。

複数の選択がある場合には「場合分け」して考えてみよう！



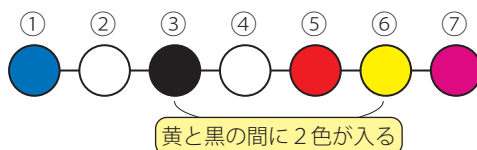
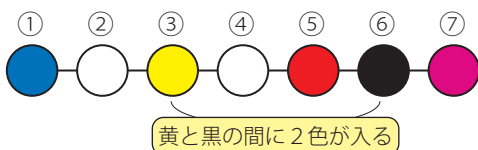
■ ①と⑤が「青」または「赤」の色となる場合



左の①が青, ⑤が赤の場合について、

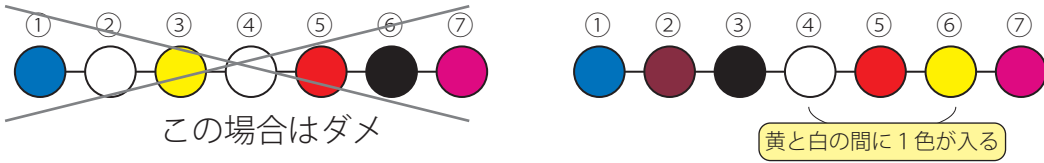
『「黄」と「黒」の間には、2色入る。』より、

次のように、『③と⑥が「黄」または「黒」となる場合』の2通りが考えられます。

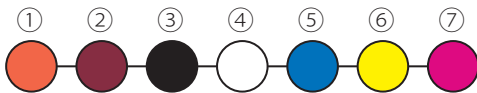


『「黄」と「白」の間には、1色入る。』より

②か④が「白」か「茶」のどちらかになりますが、左の図の場合はダメで、右の図のとき、②が「茶」で、④が「白」の場合に決まります。



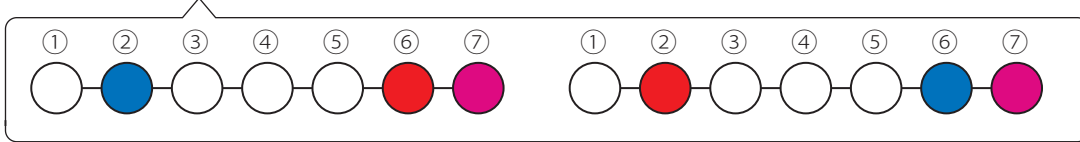
①が赤、⑤が青の場合についても、同様に考えることができるので、次のように決まります。



答えの候補が2つ
見つかったよ!



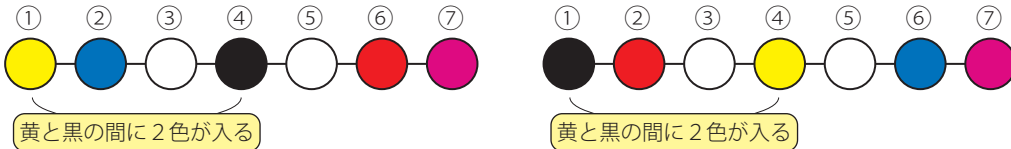
■ ②と⑥が「青」または「赤」の色となる場合



左の②が青、⑥が赤の場合について、

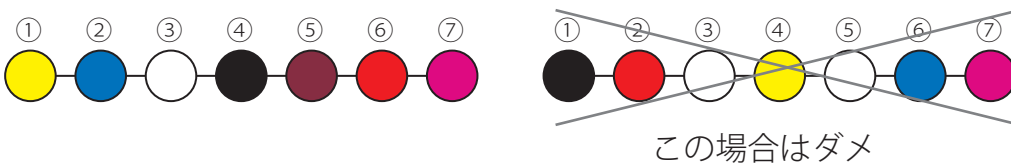
『「黄」と「黒」の間には、2色入る。』より、

次のように、「①と④が「黄」または「黒」となる場合」の2通りが考えられます。

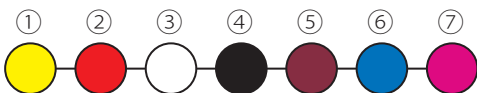


『「黄」と「白」の間には、1色入る。』より

③か⑤が「白」か「茶」のどちらかになりますが、右の図の場合はダメで、左の図のとき、③が「白」で、⑤が「茶」の場合に決まります。



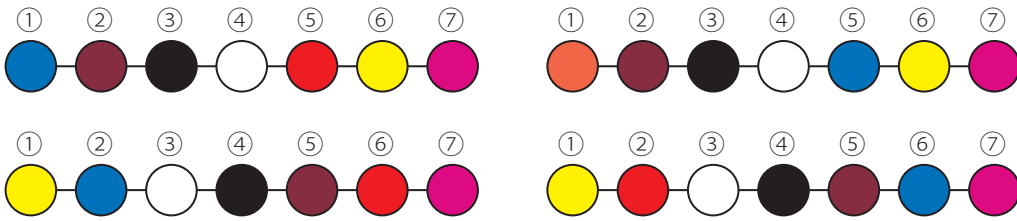
②が赤、⑥が青の場合についても、同様に考えることができるので、次のように決まります。



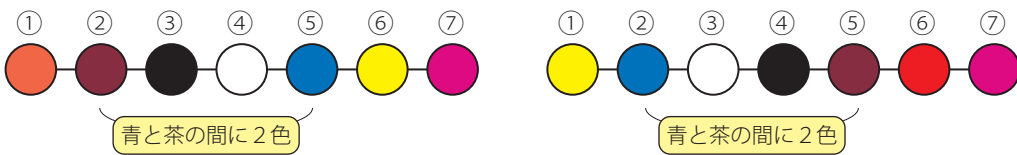
もう2つの候補が
見つかったね!



よって、条件をみたす場合は、次の4通りの場合に決まりました。



この2つのうち、「青」と「茶」の間にできるだけ多くの色が入るのは、次の2通りになります。



以上より、

①赤 ②茶 ③黒 ④白 ⑤青 ⑥黄

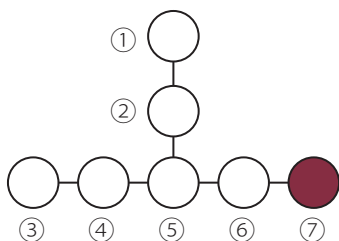
または

……(答え)

①黄 ②青 ③白 ④黒 ⑤茶 ⑥赤

問2

『⑦の位置には、「茶」が入る。』ことより、次のようになります。



これは簡単だね!



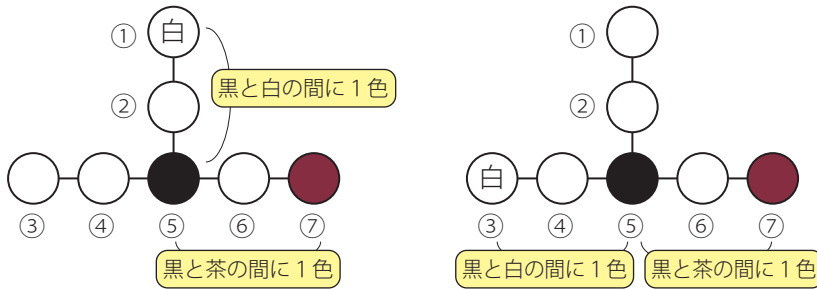
『「黒」と「白」の間に入る色の数と、「茶」と「黒」の間に入る色の数は同じ。』ことより、「黒」と「白」の間と「茶」と「黒」の間に入る色の数が**1色**と**2色**の場合の2通りの場合が考えられます。

複数の選択がある場合には「場合分け」して考えてみよう!

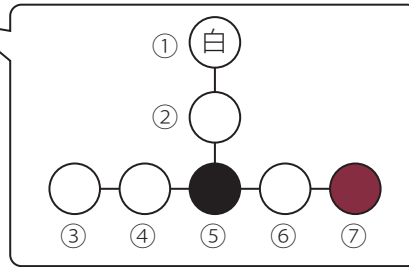


■ 「黒」と「白」の間と「茶」と「黒」の間に入る色の数が1色の場合

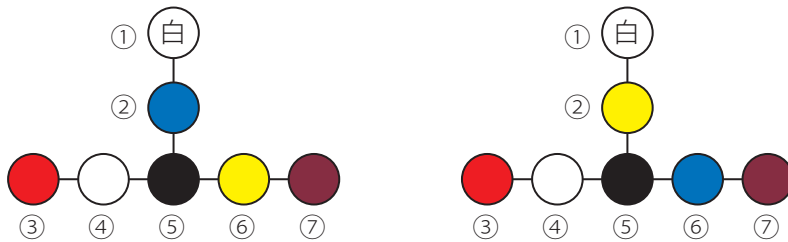
次のように、『①が「白」で、⑤が「黒」の場合』と
『③が「白」で、⑤が「黒」の場合』の2通りが考えられます。



■ ①が「白」で⑤が「黒」の場合

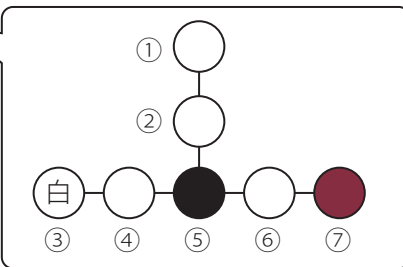


『「青」と「赤」の間には、2色入る。』, 『「赤」と「黄」の間には、2色入る。』より、
次のように、2通りが考えられます。

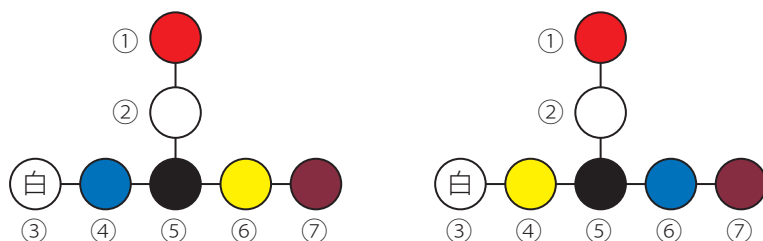


このとき、「ピンク」が入る位置はいずれの場合も「④」となります。

■ ③が「白」で⑤が「黒」の場合



『「青」と「赤」の間には、2色入る。』, 『「赤」と「黄」の間には、2色入る。』より、
次のように、2通りが考えられます。

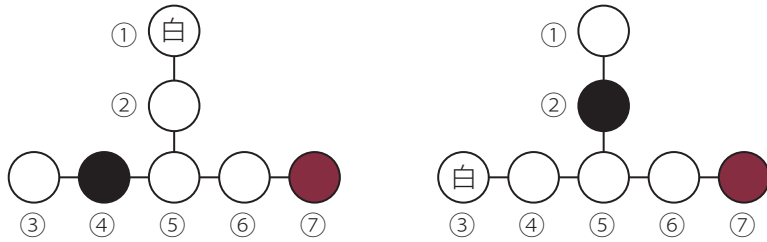


このとき、「ピンク」が入る位置はいずれの場合も「②」となります。

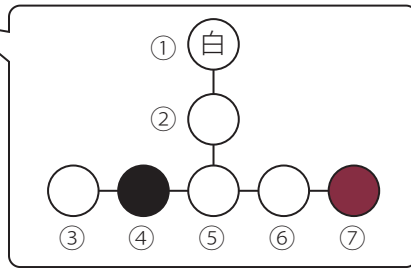
■ 「黒」と「白」の間と「茶」と「黒」の間に入る色の数が2色の場合

次のように、『①が「白」で、④が「黒」の場合』と

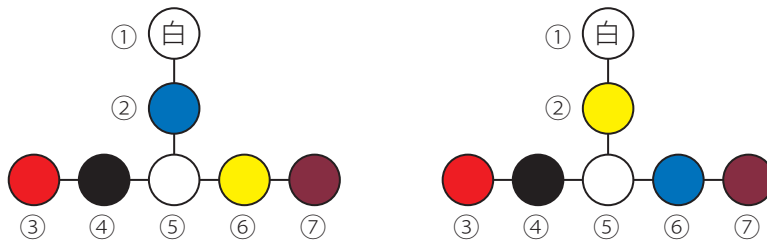
『③が「白」で、②が「黒」の場合』の2通りが考えられます。



■ ①が「白」で④が「黒」の場合

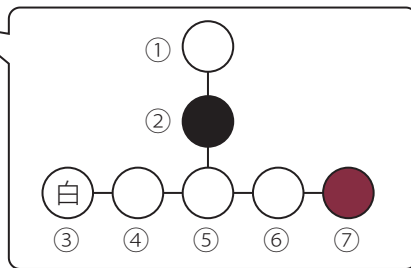


『「青」と「赤」の間には、2色入る。』, 『「赤」と「黄」の間には、2色入る。』より、次のように、2通りが考えられます。

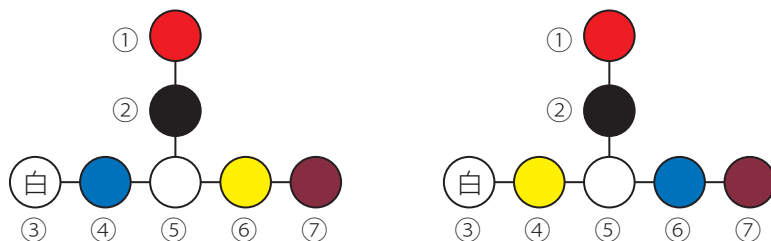


このとき、「ピンク」が入る位置はいずれの場合も「⑤」となります。

■ ③が「白」で②が「黒」の場合



『「青」と「赤」の間には、2色入る。』, 『「赤」と「黄」の間には、2色入る。』より、次のように、2通りが考えられます。



このとき、「ピンク」が入る位置はいずれの場合も「⑤」となります。

以上より、「ピンク」が入る位置は、 ②, ④, ⑤ ……(答え)



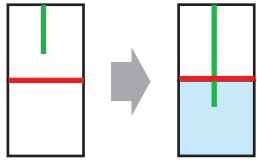
解答

★問題に入る前に、対角線が通る正方形の個数について解説します。

緑の横線が赤のたて線(正方形の辺によってできる)1本を横切るとき、水色の正方形を1個通ります。



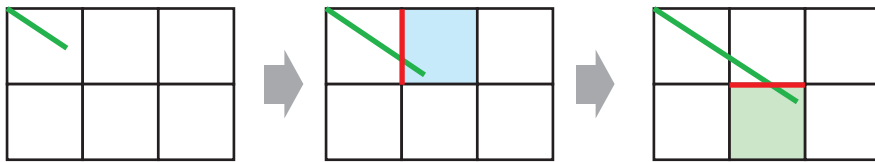
緑のたて線が赤の横線(正方形の辺によってできる)1本を横切るとき、水色の正方形を1個通ります。



これは簡単だね!



ななめ線も同様に、赤のたて線1本を横切るとき、水色の正方形を1個通り、赤の横線1本を横切るとき、黄緑色の正方形を1個通ります。

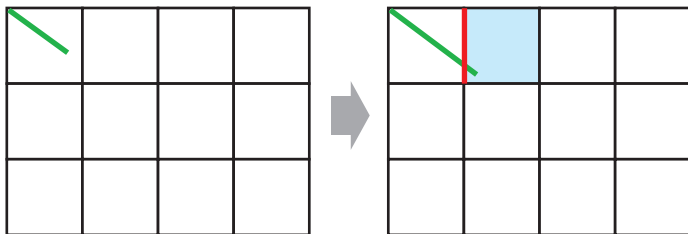


ななめ線でも同じことが言えるんだね!

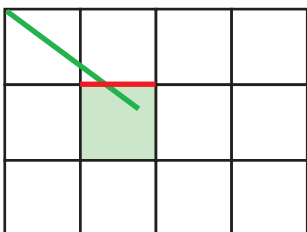


ここで、次の長方形に対角線を1本引く場合を考えます。

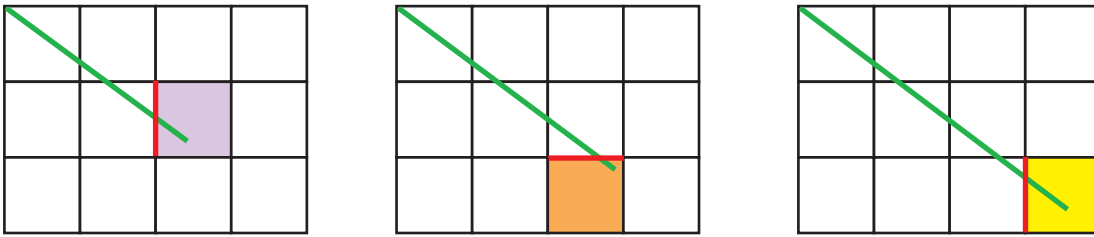
まず、ななめ線が赤のたて線1本を横切り、水色の正方形を1個通ります。



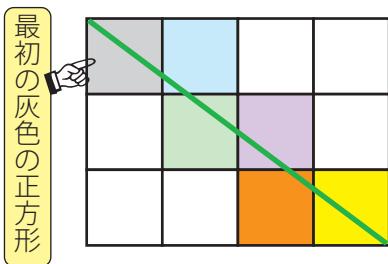
次に、ななめ線が赤の横線1本を横切り、黄緑色の正方形を1個通ります。



さらに、ななめ線が赤のたて線 1 本を横切り、紫色の正方形を 1 個通り、
赤の横線 1 本を横切り、だいたい色の正方形を 1 個通り、
赤のたて線 1 本を横切り、黄色の正方形を 1 個通ります。



したがって、この対角線が通る正方形の個数は、最初の灰色の正方形 1 個をたして、
6 個となります。

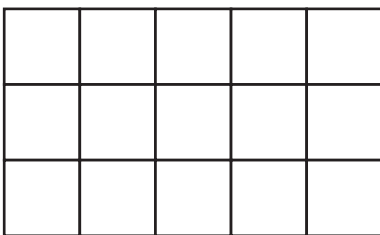


このことより、たての線、横線を横切るするたびに、引いた線が正方形の中に入る (= 正方形を通る) ので、
長方形の中の (正方形の辺によってできる) たての線、横の線を何回横切ることがわかれば、
「その本数 + 1」が「通る正方形の個数」となることがわかります。

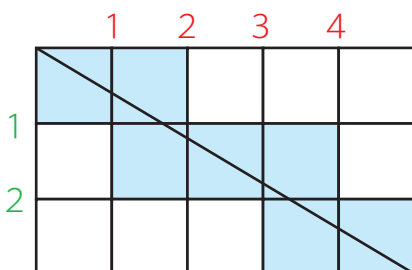
ただし、このことが言えるのは、対角線が長方形内で正方形の頂点を通らない場合です。

※対角線は、たてと横の正方形の個数が互いに素 (1 以外の公約数をもたない) のとき、頂点を通りません。

■ 例えば、正方形がたて 3 個、横 5 個の長方形の場合



この長方形の中には、たての線が 4 本 (赤数字)、横の線が 2 本 (緑数字) あります。また、正方形の数の
3 と 5 は互いに素 (1 以外の公約数をもたない) なので、この対角線は、長方形内で正方形の頂点
を通りません。よって、通る正方形の個数は $4 + 2 + 1 = 7$ (個) となります。

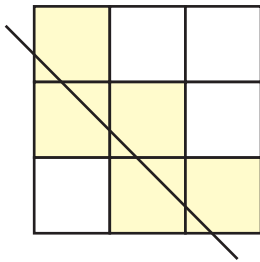


いよいよ問題に入ります。

問題 1

問題 1 は, 実際に図を書いて手を動かしながら考えましょう。

答えは, 次のようになり正方形の個数は 5 個になります。

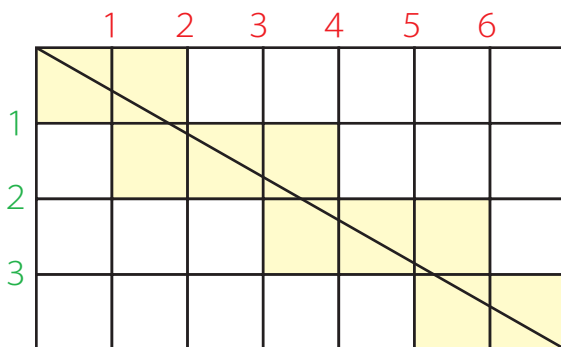


問題 2

正方形がたてに 4 個, 横に 7 個の長方形の中に, たての線は 6 本 (赤数字) で, 横の線は 3 本 (緑数字) です。

また, 正方形の数の 4 と 7 は互いに素 (1 以外の公約数をもたない) なので, この対角線は, 長方形内で正方形の頂点を通りません。

よって, 通る正方形の個数は,
 $6 + 3 + 1 = 10$ (個) …… (答え)
 となります。



本pdfデータは

大人気シリーズ！

全国公立中高一貫校 適性検査

**「論理的思考力・地頭力を要する算数問題」
過去問解説集 第3弾」**

の問題と解答の一部を紹介した
サンプルになります。

どの市販の参考書・問題集よりもわかりやすい
解説集になっていることを保証致します！

ココをクリック

商品は



**『自宅でできる受験対策ショップ
ワカルー Wakaru-！』**

からご購入いただけます。